

オーストラリア学会報

Australian Studies Association of Japan

第48号

2006年7月28日

<http://pweb.sophia.ac.jp/~s-yuga/asaj2/>

1. 2006年日豪交流年記念シンポジウム「東アジアの経済統合と日豪関係」のご案内

開催日：平成18年9月30日（土）

場 所：名古屋商科大学大学院伏見キャンパス（名古屋市中区錦1-20-1）

電話：052-203-8111（代）

担当：鎌田真弓（名古屋商科大学）

会場：3階大ホール

地下鉄東山線 伏見駅8番出口より徒歩20秒

※ 交通アクセスについては、別紙の案内をご参照ください。

URL: http://www.nucba.ac.jp/002_e01.html

参加費：無料

申し込み：同封の出欠確認用返信葉書を9月16日までに投函してください。

*なお返信葉書は国内在住の方のみに同封しています。海外在住の方で参加をご希望の方は、担当（鎌田 kamadam@nucba.ac.jp）までメールにてご連絡ください。また恐れ入りますが、宿泊は各自で確保願います。

主 催：オーストラリア学会

協 力：豪日交流基金／オーストラリア大使館／
名古屋商科大学大学院

□プログラム

12:30 - 13:00 受け付け

13:00 - 13:10 開 会 司 会 橋本雄太郎（杏林大学）

13:00 - 13:10 開会挨拶 関根政美（慶應義塾大学）オーストラリア学会代表理事

13:10 - 13:30 基調講演 「アジア太平洋の日豪一経済関係の緊密化のために」
Alison Airey（オーストラリア大使館 経済通商政策担当参事官）

13:30 - 15:00 セッションⅠ 「東アジアの経済統合の進展と日豪」
司 会 加賀爪 優（京都大学）

「東アジアにおける重層的経済統合の進展と日豪」
岡本次郎（日本貿易振興機構 アジア経済研究所）

“Japan, Australia, and Asia's New Regionalism”
Michael Wesley（グリフィス大学 アジア研究所）
討 論 青木 健（杏林大学）

15:00 - 15:15 休 憩

15:15 - 17:30 セッションⅡ 「日豪企業の域内展開」 司 会 小林信一（日本大学）
壇辻雅博（雪印乳業(株) 酪農部長）

桜井茂雄（キリンビール(株) 国際酒類カンパニー主幹）
ほか（調整中）

討 論 森 健（独協大学）

17:30 閉 会

18:00 - 20:00 懇親会（会費：一般5,000円、学生4,000円）

2. 2006年日豪交流年記念「オーストラリア理解講座」のご案内

開催日：平成18年9月28日～12月7日の毎週木曜日（11月23日を除く10回）

時間：19:00～20:30（12月7日は18:00～講演、18:50～懇親会）

場所：JR大阪駅前「ハービスPLAZA」（大阪市北区梅田2-5-25）

電話：06-6343-7500（代）

会場：4階イベントルーム

JR大阪駅桜橋口より中央郵便局前を西へ徒歩約5分

※ 交通アクセスについては、別紙の案内をご参照ください。

交通アクセス URL: <http://www.herbis-osaka.com/access.html>

フロアガイド URL: <http://www.herbis-osaka.com/f4floor.html>

対象：一般社会人、大学・高校教員、大学生等、約60名。

参加費：全10回分＝一般5,000円、学生3,000円（いずれも懇親会費を含む）。

*参加費は初回参加時に会場でお支払いください。

ただし1回のみ参加も可＝500円/回。懇親会＝2,000円。

申し込み：2006年8月21日（月）～9月21日（木）。定員になりしだい締め切ります。

*参加希望者は、「オーストラリア理解講座参加希望」として、

氏名・職業（所属）・連絡先（公開の可否も含め）を明記し

下記の申し込み先にFax、Eメール、郵便のいずれかでお送りください。

申し込み・連絡先：追手門学院大学オーストラリア研究所

Fax：072-643-9476、Eメール：cas@jimiu.otemon.ac.jp

郵便：〒567-8502 茨木市西安威2-1-15

（電話：072-641-9667は、緊急連絡にのみご利用ください。）

主催：オーストラリア学会

協力：豪日交流基金／追手門学院大学オーストラリア研究所

後援：国際交流基金／関西日豪協会／大阪日豪協会／大学コンソーシアム大阪／
カンタス航空

□日程

- ① 9月28日 開講挨拶 Lucy King（豪日交流基金 事務局長）
趣旨説明 関根政美（慶應義塾大学）オーストラリア学会代表理事
「多文化主義国家オーストラリア」 関根政美（慶應義塾大学）
- ② 10月5日 「オーストラリア先住民の伝統文化と現在」 窪田幸子（広島大学）
- ③ 10月12日 「オーストラリアの都市と農村」 金田章裕（京都大学）
- ④ 10月19日 「監獄と流刑にみるオーストラリアのアイデンティティ」 藤川隆男（大阪大学）
- ⑤ 10月26日 「オーストラリア経済と労働者の暮らし」 森島 寛（追手門学院大学）
- ⑥ 11月2日 「オーストラリアの資源・環境・農業と貿易政策」 加賀爪 優（京都大学）
- ⑦ 11月9日 「オーストラリア文学のアイデンティティー絵画との比較において」
有満保江（同志社大学）
- ⑧ 11月16日 「オーストラリアの港と都市再開発」 南出眞助（追手門学院大学）
- ⑨ 11月30日 共通テーマ〈私の日本オーストラリア交流体験〉
「日豪交流推進のための3つの戦術」 森永博久（大阪日豪協会）
「保育現場で出会った子どもたち」 平野知見（常磐会学園大学）
「日本に暮らして感じる日本の心」 Janelle McNeill（桃山学院大学・非常勤講師）
- ⑩ 12月7日
18:00 - 18:40 「オーストラリアの国際教育」
Liza Beveridge（オーストラリア政府国際教育機構・オーストラリア大使館 次長）
18:50 - 20:30 懇親会
開会挨拶 Christopher Wood（在大阪オーストラリア総領事館 副総領事）
ディジュリドゥ演奏 三上賢治

3. 2006年度総会・全国研究大会が6月10日(土)と11日(日)の両日、慶應義塾大学三田キャンパス東館で開催されました。多大なご協力をいただきました慶應義塾大学・関根政美代表理事をはじめ、関係各位に厚くお礼を申し上げます。

4. 総会報告 (2006年6月11日開催)

(1) 2005年度事業報告・決算報告

下記の事業報告が決算報告(次頁参照)及び監査報告と共に承認されました。

- ① 『オーストラリア研究』第18号(2006年3月)を発行。
- ② 『オーストラリア学会会報』第45号、第46号、第47号を発行。
- ③ 第17回全国研究大会(2006年6月)を慶應義塾大学にて開催。
- ④ 地域研究会(関西)(第1回:2005年11月26日、第2回:2006年3月18日)を追手門学院大学において開催。

(2) 2006年度事業計画・予算案

下記の事業計画が予算案(次頁参照)と共に承認されました。

- ① 『オーストラリア研究』第19号(2007年3月)を発行する。また、豪日交流基金から補助金を得て、今大会のシンポジウムに関する『オーストラリア研究』特別号(2006年12月)を発行する。[特別号発行に関わる発行形態の決定および刊号変更は編集委員会に一任する](6頁8.参照)
- ② 『オーストラリア学会会報』(年3回程度)を発行する。
- ③ 第18回全国研究大会(2007年6月)準備委員会を組織し、関西地方にて開催する。
- ④ 地域研究会(5頁7.参照)を開催する。
- ⑤ 「日豪交流年2006」企画行事としてシンポジウム(名古屋)(1頁参照)およびオーストラリア理解講座(大阪)(前頁参照)を開催する。

5. 第6期第4回理事会報告(2006年6月10日、11日)

4.の総会議事以外に、下記の事項につき承認されました。

- (1) オーストラリア研究編集委員会の提案により、論文募集について初出原稿に限る旨を今後、明記する。
- (2) 2005年から始められた「地域研究会」について、地域研究会で行われた優れた発表を「全国研究大会」でも発表してもらうなど、地域研究会と全国研究大会を連係させ、若手研究者を支援する場として今後、いっそう活用する。
- (3) 学会ホームページについて、国立情報学研究所(NII)の学協会情報発信サービスからのリンクについて、手続きを継続する。
- (4) 今後の理事会のあり方について、理事会をスリム化していくとともに、理事の役割を見直す方向で改革を進めていく。
- (5) 福嶋輝彦理事より理事職辞任の申し出があり、承認された。
- (6) 新規入会10名、退会会員8名を承認する。

出席者=関根政美(代表理事)、有満保江、安藤充、加賀爪優、加藤めぐみ、鎌田真弓、
小林信一、鈴木雄雅、竹田いさみ、田澤佳昭、橋本雄太郎、藤川隆男、松繁寿和、
南出眞助(以上理事)、岡崎一浩、谷内達(以上監事)

2004年12月 - 2007年12月役員一覧

[代表理事] 関根政美

[副代表理事] 鎌田真弓

[総務担当理事] 橋本雄太郎

[会計担当理事] 安藤 充

[全国研究大会担当理事] 有満保江、南出眞助

[研究企画担当理事] 加賀爪 優、竹田いさみ、
松繁寿和

[学会誌担当理事] 小林信一、加藤めぐみ、
藤川隆男、有満保江*

[会報担当理事] 鈴木雄雅、田澤佳昭

[地域担当理事] 南出眞助*

[監事] 谷内 達、岡崎一浩

(*2005年6月の理事会において変更いたしました。)

オーストラリア学会財務諸表

貸借対照表

平成18年3月31日現在

科目	当年度	前年度	増減
I. 資産			
1. 流動資産			
現金	3,027	18,293	△ 15,266
郵便貯金口座	863,162	567,722	295,440
郵便振替口座	508,298	380,068	128,230
流動資産合計	1,374,487	966,083	408,404
資産合計			
1,374,487 966,083 408,404			
II. 負債の部			
1. 流動負債			
前受会費収入	10,000	0	10,000
流動負債合計	10,000	0	10,000
負債の部合計			
10,000 0 10,000			
III. 正味財産の部			
1. 一般正味財産			
正味財産合計	1,364,487	966,083	398,404
負債及び正味財産合計			
1,374,487 966,083 408,404			

正味財産増減計算書

平成17年6月1日から平成18年3月31日まで

科目	当年度	前年度	増減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①基本財産運用益	0	3	3
②受取会費・入会金	630,000	1,245,000	△ 615,000
③雑誌販売収入	5,000	35,200	△ 30,200
経常収益計	635,000	1,280,200	△ 645,200
(2) 経常費用			
①事業費			
大会及び研究会旅費補助等	56,000	200,000	△ 144,000
②管理費			
印刷費	49,300	644,637	△ 595,337
会議費	60,948	68,420	△ 7,472
消耗品費	4,868	12,579	△ 7,711
通信費	49,480	120,410	△ 70,930
謝金	16,000	2,400	13,600
管理費計	180,596	848,446	△ 667,850
経常費用計	236,596	1,048,446	△ 811,850
当期経常増減額	398,404	231,754	166,650
2. 経常外増減の部			
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	398,404	231,754	166,650
一般正味財産期首残高	966,083	734,329	231,754
一般正味財産期末残高	1,364,487	966,083	398,404
II. 正味財産期末残高			
1,364,487 966,083 398,404			

収支決算書

平成17年6月1日から平成18年3月31日まで

科目	予算額	決算額	差異
I. 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
①基本財産運用益	0	0	0
②受取会費・入会金	670,000	640,000	30,000
③雑誌販売収入	10,000	5,000	5,000
経常収益計	680,000	645,000	35,000
2. 事業活動支出			
①事業費			
大会及び研究会旅費補助等	100,000	56,000	44,000
30周年記念企画準備費	300,000	0	300,000
②管理費			
印刷費	700,000	49,300	650,700
会議費	150,000	60,948	89,052
消耗品費	20,000	4,868	15,132
通信費	150,000	49,480	100,520
謝金	10,000	16,000	△ 6,000
雑費	10,000	0	10,000
管理支出計	1,040,000	180,596	859,404
事業活動支出計	1,440,000	236,596	1,203,404
事業活動収支差額	△ 760,000	408,404	△ 1,168,404
II. 投資活動収支の部			
0 0 0			
III. 財務活動収支の部			
0 0 0			
IV. 予備費支出			
0 0 0			
当期収支差額	△ 206,083	0	△ 206,083
前期繰越収支差額	966,083	966,083	0
次期繰越収支差額	0	1,374,487	△ 1,374,487

財産目録

財産目録は、貸借対照表の資産の部と同一であるために作成は省略した。

キャッシュ・フロー計算書

平成17年6月1日から平成18年3月31日まで

科目	当年度	前年度	増減
I. 事業活動によるキャッシュ・フロー			
1. 事業活動収入			
①基本財産運用収入			
受取利息	0	3	△ 3
②会費・入会金収入	640,000	1,245,000	△ 605,000
③雑誌販売収入	5,000	35,200	△ 30,200
事業活動収入計	645,000	1,280,203	△ 645,200
2. 事業活動支出			
①事業費			
大会及び研究会旅費補助等	56,000	200,000	△ 144,000
②管理費			
印刷費	49,300	644,637	△ 595,337
会議費	60,948	68,420	△ 7,472
消耗品費	4,868	12,579	△ 7,711
通信費	49,480	120,410	△ 70,930
謝金	16,000	2,400	13,600
管理費計	180,596	848,446	△ 667,850
事業活動支出計	236,596	1,048,446	△ 811,850
事業活動によるキャッシュ・フロー	408,404	231,757	166,650
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー			
0 0 0			
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー			
0 0 0			
IV. 現金及び現金同等物の増減額	408,404	231,757	166,650
V. 現金及び現金同等物の期首残高	966,083	734,326	231,757
VI. 現金及び現金同等物の期末残高	1,374,487	966,083	408,404

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 会計処理の変更

平成15年3月に公益法人会計基準検討会から公益法人会計基準が公表されたことにより、オーストラリア学会においても平成18年3月年度から、公益法人会計基準に準拠した会計報告をすることとした。

(2) 棚卸資産の評価

棚卸資産については、金額的に重要性がないために評価をないものとみなした。

(3) 未収会費の評価

未収会費については、決算期以降かつ財務諸表作成時以前に回収されたものについてのみ資産に計上するものとする。

予算書

平成18年4月1日から平成19年3月31日まで

科目	予算額	前年度	差異
I. 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
①基本財産運用益	40	0	40
②受取会費・入会金	840,000	670,000	170,000
③雑誌販売収入	10,000	10,000	0
④助成金収入	2,040,000	0	2,040,000
経常収益計	2,890,040	680,000	2,210,040
2. 事業活動支出			
①事業費			
大会及び研究会旅費補助等	150,000	100,000	50,000
日豪交流年記念事業費	2,140,000	300,000	1,840,000
②管理費			
印刷費	720,000	700,000	20,000
会議費	150,000	150,000	0
消耗品費	20,000	20,000	0
通信費	150,000	150,000	0
謝金	30,000	10,000	20,000
雑費	10,000	10,000	0
管理支出計	1,080,000	1,040,000	40,000
事業活動支出計	3,370,000	1,440,000	1,930,000
事業活動収支差額	△ 479,960	△ 760,000	280,040
II. 投資活動収支の部			
0 0 0			
III. 財務活動収支の部			
0 0 0			
IV. 予備費支出			
0 0 0			
当期収支差額	△ 300,000	△ 206,083	△ 93,917
前期繰越収支差額	1,374,487	966,083	408,404
次期繰越収支差額	594,527	0	594,527

上記のデータは、学会ホームページでも公開しています。

全国大会研究発表の募集

オーストラリア学会 2007 年度総会・全国研究大会は 6 月 9 日(土)、10 日(日)の両日、**関西地方**で開催されます。(詳細は会報次号 [4 月発行予定] でお知らせいたします。)

個別報告の発表を希望される会員は、氏名・所属・題目を明記の上、**11 月末日まで**に、学会事務局あて書面(メール可)にてお申し込みください(200 字程度の要旨を添付してください)。

なお、個別報告は 10 日(日) 午前中を予定しております。

2005 年から個別報告の申し込み時期が早くなっております。ご注意ください。

6. 大会報告者(海外在住者)への交通費助成のお知らせ

第 13 回全国研究大会から、報告される会員には海外在住者に限り、交通費助成(一律 5 万円)を行うことになっております(2001 年 12 月 18 日第 5 期 1 回理事会決定)。発表申込の際に、その旨明記してください。12 月開催予定の理事会で申請案件を審議、決定いたします。

7. 第 3 回 地域研究会(関西)のお知らせ

日 時: 2006 年 11 月 18 日(土) 14:00~17:10 *非会員の方も参加できます。

場 所: 茨木市西安威 2-1-15 追手門学院大学 オーストラリア研究所

TEL: 072-641-9667 / FAX: 072-643-9476 E-mail: cas@jimu.otemon.ac.jp

会場はホームページでご確認ください。http://www.otemon.ac.jp/cas/

発 表: 「キリスト教信仰と伝統文化の衝突—ペンテコステ派アボリジニ集団の信仰実践の再考」

大野あきこ (オーストラリア国立大学大学院 博士課程)

「オーストラリア外交事始め—日豪関係の視点から」 酒井一臣 (日本学術振興会 特別研究員)

交 通: JR 茨木駅西口南へ 7 分 マイカル茨木横、または阪急茨木市駅西口前から追手門学院スクールバス(無料) 13:30 発。ほかに阪急バスもあります。

※ 地域研究会に関しては、発表者が大学院生の場合に限り、居住地と研究会場間の交通費に関し、主要都市間の交通費実費の半額を、1 万円を極度額として、補助します。

要 旨:

大野あきこ (オーストラリア国立大学大学院 博士課程)

「キリスト教信仰と伝統文化の衝突—ペンテコステ派アボリジニ集団の信仰実践の再考」

アボリジニのキリスト教信仰研究は、伝統的宗教との習合に注目することで先住民側の抵抗や主体性を議論してきた。一方、NSW 州最北部バンジャラン集団は、20 世紀初頭からペンテコステ派に帰依し、黒人会衆のネットワークを維持している。ペンテコステ派は聖書に字義通りに従い、伝統文化を否定する。しかし彼らは忠実に教えに従う一方で、自集団に強い帰属意識をもち、むしろ主流社会から遠ざかっている。その意味を考察する。

酒井一臣 (日本学術振興会 特別研究員) 「オーストラリア外交事始め—日豪関係の視点から」

1919 年、パリ講和会議への参加が、オーストラリアの外交事始めとされる。オーストラリア最大の関心事は、大戦の結果、間近に勢力を伸ばしてきた日本の脅威をいかに小さくするかということであった。オーストラリア代表団を率いたヒューズ首相は、獅子奮迅の活躍をしたが、その強引な姿勢は日本の強い反発を招くことになった。今回の報告では、報告者の専門である日本外交史の視点から、外交の場にオーストラリアが登場してきた意義を探っていききたい。

新刊書のご案内

会員の方より寄せられました新刊案内をご紹介します。

◎『ネオ・リベラリズムの時代の多文化主義—オーストラリアン・マルチカルチュラリズムの変容』

塩原 良和 著 三元社 2005年11月刊行（価格：本体2,800+税 ASIN4883031721）

◎『オセアニアのことば・歴史』岡村 徹 著 溪水社 2006年5月刊行

（価格：本体1,800+税 ISBN4-87440-923-7）著者のコメント：本書は、オセアニア地域のことばと歴史を紹介したものである。前半部はナウル島、ノーフォーク島、ニューギニア島などの島嶼地域の記述が中心である。後半ではオーストラリアの言語的世界を平易なことばで説明している。

8. 『オーストラリア研究』第20号投稿募集および研究文献目録掲載のお知らせ

会報前号にて『オーストラリア研究』第19号の投稿募集を行いました。19号は6月10日に開催されましたシンポジウムの特別号（2006年12月発行予定）とすることにいたしました。通常の論文集は20号（2007年3月発行予定）になります。つきましては、あらためて20号に掲載する論文を募集します。論文の締め切りは2006年8月末日。詳細は最近号掲載の「投稿要領」をご覧ください。なお、投稿論文は初出のものに限ります。

また第12号以降、会員の研究文献目録を継続して掲載しております。引き続き会員の協力をお願いします。発表された著書、論文、報告書、翻訳などのなかから、オーストラリア学会の趣旨に関係する目録未掲載の研究文献を選び、お知らせください。締め切りは2006年10月30日（期日厳守）。編集作業の都合上、電子メール（またはテキストファイルを含んだFD）をご利用ください。記入例は第15号（2003.3）を参照し、掲載書式に必ず準じる形でお送りください。

投稿・連絡先：オーストラリア研究編集委員会

〒610-0394 京田辺市多々羅都谷 1-3 同志社大学言語文化教育研究センター 有満保江気付

TEL：0774-65-7070 Fax：0774-65-7069 E-mail: yarimitu@mail.doshisha.ac.jp

2005年5月より宛先が変わりましたので、ご注意ください

なお、受信した旨をお知らせするメールが必ず返信されますので、ご確認ください。

9. 事務局からのお知らせ

《学会誌の最新号が届かない場合》

学会誌の最新号、『オーストラリア研究』第18号（2006年3月）が届いていない方は事務局へご連絡下さい。また、連絡先変更の場合は、お手数でも必ず下記事務局宛にご連絡下さい。

〒192-8508 東京都八王子市宮下町 476 杏林大学総合政策学部 橋本雄太郎研究室気付

オーストラリア学会事務局 TEL：042-691-0011(代) / FAX：042-691-5899

E-mail: hashimotobunch@mri.biglobe.ne.jp

2005年4月より事務局が移転しましたので、ご注意ください

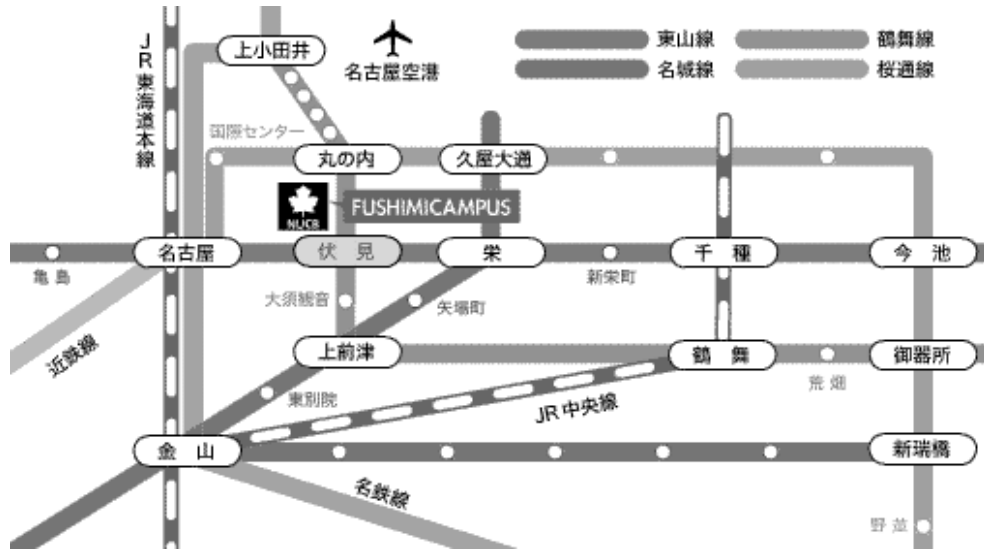
会費振込先：00190-3-157063 加入口座名：オーストラリア学会

※本会報は学会記録以外に、会員のご意見やご要望を掲載します。意見、著書、新刊、訳書、投稿など、事務局または会報担当理事までお送りください。[紙面の制約上、速やかに掲載できない場合がありますことをご了承ください。](宛先：鈴木 HAF00025@nifty.ne.jp または田澤 ytazawa@dohto.ac.jp)

[編集担当：田澤佳昭（道都大学）]

2006 年日豪交流年記念シンポジウム「東アジアの経済統合と日豪関係」会場案内

名古屋商科大学伏見キャンパスまでの交通案内



名古屋商科大学伏見キャンパス周辺図



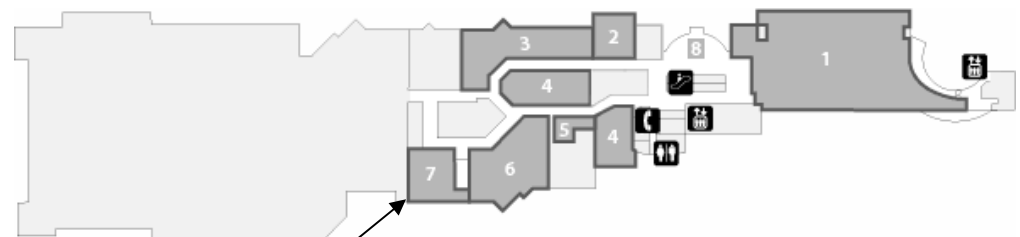
※図は名古屋商科大学 HP (http://www.nucba.ac.jp/002_e01.html) より引用させていただきました。

2006 年日豪交流年記念「オーストラリア理解講座」会場案内

ハービス PLAZA (ハービス OSKA) 周辺図



ハービス PLAZA (ハービス OSKA) 4階フロアガイド



7 イベントルーム(オーストラリア理解講座会場)

- 1) サンゲツ
- 2) トミタ
- 3) Tile&Living Museum dee plus
- 4) 五洋インテックス
- 5) ミーレ大阪ショールーム
- 6) 関西電力エルピュアラ

※図は HERBIS OSAKA HP (<http://www.herbis-osaka.com/access.html>) および http://www.nucba.ac.jp/002_e01.html より引用させていただきました。